



東京23区・特別区長会

全国連携シンポジウム

～遠隔自治体間連携の可能性と展望～

(平成28年4月26日開催)

遠隔自治体間連携の可能性と展望

—— 東京都立大学 大杉 覚 教授 講演より

(プロジェクトは何を目指すべきなのか) 全国連携プロジェクトは、いろいろな自治体が多様に連携に関わる上でベースになるプラットフォームになるような仕組みづくりを提供する機会となりうる。遠隔自治体間連携を進めていく時には、具体的に何を目的とするのかが一番重要。自治体だからこそその視点は大きく分けて3点と思う。

- ①災害や社会の変化の中で住民の生命や財産を守る
(災害時の自治体間連携の在り方)
- ②都市と農山村の交流を進める (地方創生の視点)
- ③連携交流を進めるためのインフラをつくる
(相互の学び合い、切磋琢磨)

特別区のプロジェクトとして、既に蓄積されている豊富なノウハウを、どう共有していくのかが問われる。明確な目的を持って充実した内容を持つ取り組みを、既に各区がさまざまに展開してきている。これらが活かされるかどうかは日本の地方自治全体にかかわる問題だと考える。

シンポジウムでいくつか提起されたテーマの一つが災害への対応であり、東日本大震災等の被災地への支援はもちろん、特別区の持つ防災対応のノウハウを共有していくプラットフォームとして、全国連携プロジェクトの枠組みを活用していきます。

